北陽だより

北海道千歳北陽高等学校
ＰＴＡ総務委員会
令和６年12月20日発行
第223号

千歳市北陽２丁目10番53号
Tel：0123-24-2819
http://www.chitosehokuyou.hokkaido-c.ed.jp

授業「マルチテクノロジー」で撮影しました

223 号内容

- 体育祭　● 学校祭
- 見学旅行
- 高Ｐ連 全道・全国大会
- その他 学校行事報告
- 部活動報告
- 各年次より　● 校長より

体育祭を盛大に実施

秋晴れのもと、体育祭を開催！

生徒会部　部長　佐々木　伸

穏やかな秋晴れに恵まれた９月24日・25日の２日間、本校体育館やグラウンドで体育祭を開催しました。恒例のバレーボールやクラス対抗リレーに加え、今年度は卓球や玉入れといった新たな競技を行いました。

試合会場では、観覧の生徒たちが選手の白熱したプレーに声援を送り、どの競技も大いに盛り上がりました。

期間中、大きなケガなどもなく無事に終えることができ、ホッと胸をなで下ろしているところです。

令和６年度　体育祭 総合成績

総合優勝　２年４組　580点

準優勝　３年１組　500点　　**第３位**　３年２組　400点

2-4 総合優勝

2年4組　髙木　真由

今年から３学年合同の体育祭となって、勝負形式や競技が色々変わった去年とは全然違う形での体育祭でした。そんな中で優勝できたことはほんとに嬉しかったです。また、クラスの団結力がみえたいい経験だったと思います。

まず、１日目は男子バレーボール、女子バレーボール、女子ドッチボール、男子サッカーPKがありました。結果は男子バレーボールは『３位』、女子バレーボールは『１位』、女子ドッチボールは『１位』、男子サッカーPKは『３位』といういい成績を残して１日目が終わりました。出番じゃない人たちは出番の人たちをたくさん応援していました。応援も試合もどっちも楽しかったです。

２日目は大縄、玉入れ、学年対抗リレーをしました。大縄は練習時間が短い中みんなで声をかけあって本番では９回跳ぶことができました。また、玉入れではみんな無我夢中で玉を入れていきとても楽しかったです。学年対抗リレーでは、走る前に円陣を組んだり、頑張ろうという声掛けをしました。１日目とは違ってクラスのみんなで協力する競技でした。

みんなで頑張った結果が『優勝』といった形になったのが嬉しかったです。

この２日間を通して、２年４組の団結力、仲のよさが深まったと思いました。

来年もこのメンバーで頑張って全力で楽しんでいきたいと思います！！

3-1 準優勝

3年1組　島村　勇輝

３年生最後の体育祭で、私たちのクラスは総合２位という悔しい結果を収めました。ですが、この結果は、仲間と一緒に勝ち取った証だと感じています。

特に印象に残っているのは、バレーボールとサッカーのPK戦です。バレーボールでは、互いに声を掛け合い、攻守を切り替えて全力で戦いました。PK戦では、緊張感が漂う中、みんなで一丸となって挑戦し、最後まで諦めずに戦い抜きました。また、ドッチボールや卓球も、どれもが最後まで諦めず、全力で取り組み頑張っていました。それぞれの競技で、クラスの絆を感じ、仲間の応援が大きな力になりました。また、クラス合同で行った大縄跳びでは、協力する大切さを再認識しました。個々の力を合わせて戦うことで、どんなに難しい競技も乗り越えることができました。選抜リレーでは、バトンをつなぐ瞬間が特に緊張しましたが、全員が一丸となって走り抜け、最後の最後まで諦めずに戦いました。この体育祭を通して、チームワークの大切さや仲間の絆の強さを改めて感じました。

最後の体育祭、クラス全員で努力し合い、支え合って得た総合２位という結果は、私たちの大きな誇りです。この経験を胸に、卒業後もずっと仲間との絆を大切にしていきたいと思います。

学　校　祭

第49回北陽祭を開催！

生徒会部　部長　佐々木　伸

７月11日・12日の２日間日程で第49回北陽祭を開催しました。

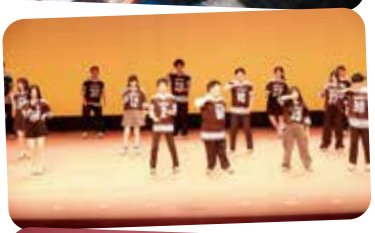
初日、メインである「クラス展示」では、各クラスがテーマを決めてHRを飾り付けたり、アトラクションブースを設けたりするなど、来場者を大いに楽しませていました。

また、駐輪場前には生徒のアンケートによって選ばれた人気のキッチンカー７台が勢揃いし、楽しいおしゃべりと美味しい食事に大満足の様子でした。

２日目は、千歳市民文化センターに会場を移して「ステージ発表」を開催しました。各クラス、連日遅い時間まで練習に汗を流すとともに、本番では趣向を凝らした衣装を身にまとって会場を盛り上げていました。

また、ゲストとして兄妹デュオ「吉澤吉澤」を招いて吹奏楽局とのスペシャルステージも開催しました。素敵なステージに全校生徒と200名を超える保護者の皆様で心豊かな一日となりました。

さて、今年度は準備期間から学校祭当日にかけて、連日多くのPTAで巡回・見守り活動を実施しました。期間中、のべ135名の保護者の皆様にご協力いただき、安心で安全な学校祭を実現することができました。衷心より感謝申し上げます。ありがとうございます！



令和６年度　学校祭　総合成績

総合優勝　３年３組　261.5点

準優勝　２年３組　254点　　**第３位**　３年１組　245点

3-3 総合優勝

3年3組　園田　優奈

高校生活最後の青春を彩る行事の一つ…学校祭！

私達のクラステーマは「名探偵コナン」。クラ展では委員長を中心にみんなで意見を出し合い、コナンの世界をテーマにした展示をしました。『ポアロ』や『毛利探偵事務所』、『少年探偵団』の顔出し看板などのフォトスポット、景品を用意したちょっとしたミニゲームなども作りました。

ステージ発表では、K-POPの曲に合わせステージ発表のメンバーが練習を繰り返し、本番では息の合ったダンスで盛り上がりました！

ステンドグラスは、クラ展のテーマに合わせ、コナンと怪盗キッドを描いたオリジナルデザインで作りました。リーダーを務めた私はメンバーと案を出し合い、気に入ったものを合わせてデザインを考えました。

HRビデオでは、名探偵コナンをテーマに仲間と協力しオリジナルの編集で、ちょっとしたおふざけを添えた面白いHRビデオになりました！リーダー曰く、『見ている人たちが笑ってくれているのを見て、とても達成感を感じられました』とのことです！このように、みんなの協力があったからこそ学校祭を楽しむことができ、総合優勝も取れたのだと思います！

2-3 準優勝

2年3組　田村　琥伯

今年の北陽祭は、私達にとって、青春の１ページに刻まれた最高の思い出となりました。

クラス展示では、トランプゲームを題材とした展示とフォトスポットを作りました。放課後や準備の時間にクラスの人と買い出しに行くなど、仕事を分担しながら製作をしました。次に、ステージ発表では、何よりも第一に、クラスのみんなで踊るということを考えて曲などを決めました。ダンスが苦手な人がいたため、簡単な曲にして４グループに別れて練習を行いました。最初は振り付けを覚えるのが大変でした。覚えたと思ったら次の日には新しい振り付けがあり、毎日振り返りながらの練習でした。その中で、クラス展示の製作もあり、毎日大変でしたがみんな頑張っていました。いろいろなこともありましたが、最後まで各自の役割をしっかりと努めて北陽祭を迎えることができました。

次の北陽祭では、再びクラス一丸となって、総合優勝を目指していきたいと思います。２年３組のメンバーで準優勝できたことを誇りに思います。

見学旅行

２年次主任　林川　弘嗣

10月６～９日３泊４日において広島・関西の見学旅行に行きました。生徒の皆さんは、北海道とはまるで違う風土、文化、歴史に大いに感動し、貴重な経験をしてきました。

広島では原爆資料館を見学し、戦争や原爆の悲惨さに、言葉もなく真剣に見学をしていました。その後、献花、献鶴を行い、原爆ドームを間近で見た際には、今まだ残る戦争の爪痕を感じているように見えました。

２日目には京都班別研修を行いました。この日のために班員と計画し楽しみにしていた京都・大阪を堪能してきました。メンバーとともに史跡を巡り、地元のグルメを味わい、お土産を選ぶ。ホテルに戻ってきた皆さんの顔は、目一杯楽しんできた疲労感がありました。

３日目はコース別研修を行いました。一番人気は、伏見稲荷大社でした。ミステリアスな連続する鳥居は、一度は見たい魅力的なスポットのようです。私は大阪万博の記念公園に向かい、太陽の塔の内部を見学することができました。岡本太郎が表現したかった世界観のエネルギーに生徒の皆さんも当てられていました。午後はUSJに入り、すれ違う生徒の皆さんは思い思いの姿で、いい笑顔を見せてくれました。

４日目は奈良公園の見学を行いました。集合写真の後、思い思いに「鹿せんべい」をあげて、鹿に追いかけられていました。また、ガイドさんの名調子のもと、南大門、大仏殿、大仏と四天王の像について説明を受け、歴史の流れを感じ、すべての研修を終えました。

班別研修など楽しいことも、感動することも、ひとりひとり良い思い出になり、振り返られる旅行になったことと思います。

見学旅行の思い出 １　２年3組　安藤　玖花

私的にはすごく長いような、あっという間だったような…そんな４日間でした。１日目から移動が多く、少し疲れてしまいました。しかし、広島での見学はすごく勉強になり、命の尊さを知れて良かったと本当に思っています。今後にこの経験を生かしていきたいと思いました。２日目の班別研修は、様々な場所へ行き、いろいろなものを食べ、たくさん写真を撮った一日でした。少しずつ環境にも慣れてきてとても楽しかったです。３日目は正直一番楽しみにしていたUSJで、ここでもたくさんの写真を撮り、思い出として残すことができました。USJではハリー・ポッターのエリアが一番楽しくて、世界観が本物でした。アトラクションにもたくさん乗って最高でした。最終日は奈良公園と東大寺へ行き、鹿さんと大仏さんを見てきました。４日間全部がとても良い経験と思い出になって本当に楽しかったし、高校生活でとても大切な思い出だと思います。また、こんな楽しい気持ちになれる旅行ができたら良いと思いました。

見学旅行の思い出 2　2年4組　小林　七海

　見学旅行は自分にとって、すべてが初めてのことばかりだったなと思っています。まず１つめキャリーケースを使ったことです。ずっと旅行の際にはボストンバッグだったので、キャリーケースはとてもウキウキしました。２つめは飛行機に乗ったことです。周りからはジェットコースターみたいだよ！といわれたのを信じたら本当そのままでした(笑)。京都に行ったのも大阪もユニバも広島も奈良もいろんな思い出があります。京都は着物をレンタルして、映画村に行って、大阪は初めてのユニバに行ってカチューシャとか買って楽しんだと思うし、書く順番間違えましたけど、広島の原爆ドームや様々な写真などを見て、本当いろいろ思うことがありました。奈良もとても楽しかったです。鹿にせんべいをあげて集まりすぎて服をかまれました。それも良い思い出ですし、大仏も大きく、感動しました。

高P連 全道・全国大会（茨城）に参加しました

全道大会に参加して

PTA副会長　榊　　剛徳

私は令和６年６月８日から９日までの間、第73回北海道高等学校PTA連合大会北見大会に参加させて頂きました。PTA大会とは各地域におけるPTA活動の状況や取り組みの成果を発表して問題点などを共有すると共に、教職員と保護者が互いに協力して、それぞれの立場における教育の責任を果たしていこうとするものです。

大会の会議では道内各地のPTA・学校関係者と様々な活動や問題点について話し合いました。今大会のテーマである「新時代をひらく若者を共に支えよう」にあるように生徒の育成は保護者だけの問題ではなく「学校・保護者・地域」が役割分担を明確にしながら同じ方向を向き、それぞれの立場から活動していくことが重要だと考えます。特に地域との連携が困難であると思いますが、本校はボランティア清掃や千歳市・企業等の様々な活動に参加することによって北陽高校というブランドを広く発信していると実感しています。それらは良い意味で地域の方々と顔見知りになり挨拶をしたりすることができ、地域との連携に繋がっていると思います。

昨今、PTAの存在価値がよく問われていますが、我々保護者（PTA）も地域に住む一員であるという事を自覚すると共に、全ての生徒の為に学校や地域事業への参画意識を高めていきたいと本会議を通じて思いました。

８月　全国高Ｐ連茨城大会

総務部長　龍　　聡己

第73回全国高等学校PTA連合会大会が、８月22日・23日茨城県水戸市で開催されました。今年は、PTA役員の方々の都合が付かず、渡辺校長、PTA担当の龍主幹教諭で参加しました。

大会主題「歴史の町で変革を!! ～新たな時代が目に入らぬか～」のもと、全体会・講演会、５つの分科会が、アダストリアみとアリーナなどで行われ、全国各地から多くの会員が参加しました。

初日は、ザ・ヒロサワ・シティ会館で行われた第２分科会に参加し、「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」をテーマとした２つの講演を視聴しました。

１つ目は、司馬クリニック院長の司馬理英子氏から「のび太・ジャイアン症候群」と題して講演がありました。ADHDやASDなどの発達障害の特徴と、家庭や学校において保護者や教師が子どもたちと接するときの留意点や上手な関わり方について、具体的にお話ししてくださいました。

２つ目は、有馬総合法律事務所弁護士の有馬慧氏から「18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～」と題して講演がありました。18歳未満の子どもに対する法律の保護や成年年齢引き下げに伴い起こりうる消費者被害とそのメカニズム、救済と予防などについて、詳しくお話しがありました。２日目は、茨城県出身で第72代横綱稀勢の里の二所の関寛（にしょのせき ゆたか）氏による記念講演が行われました。「人材育成の不易流行」と題して、勝つことだけではなく、先を見据えた怪我や病気をしない身体づくりやストレス・マネジメントなど、育成したい資質・能力を明確にし、動画などICTを活用して主体的に考えさせるなど、弟子の育成において重視されていることについて、分かりやすくお話をしてくださいました。

今年も他校のPTAの皆様とも交流を深めることができ、有意義な２日間となりました。

進学未来ビュー

「マイナビ進学ライブ・未来ビュー」に参加

進路指導部長　森尾　　聡

９月17日（火）、札幌市北区のつどーむで開催された進路イベント「マイナビ進学ライブ・未来ビュー」に、本校の１年次生が参加しました。

この日は、３時間目にオリエンテーションを行い早めの昼食をとった後、クラスごとバスに乗り込み出発。会場は札幌市内および近郊から参加した高校生らで、大いに賑わっていました。本イベントは、多数展開している大学・短大・専門学校や企業のブースを、高校生が自由に回って話を聴くというものです。本校生徒は、事前学習で確認した自分の興味ある分野や業種に合わせて各ブースを回りました。お目当ての学校の話を聴いたり、体験型のブースに参加したりと、皆、会場内を積極的に動き回っていました。

入学して半年が経過した１年次生にとって、ここでの見聞は、自己の進路について考えるよいきっかけになったと思います。

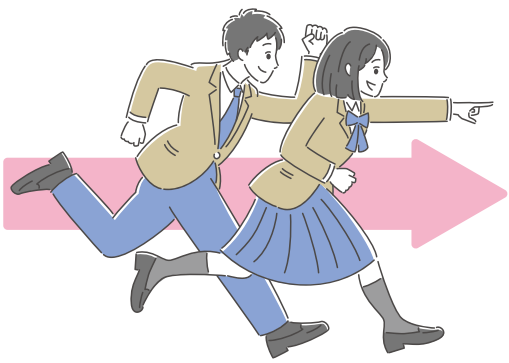
「未来ビュー」に参加して

１年４組　男子

私たち１年次生は、９月17日（火）の「マイナビ進学ライブ・未来ビュー」に参加してきました。このイベント参加の２週間前、９月３日（火）にはマイナビの方に来ていただき、体育館で未来ビューに関する事前指導をしていただきました。そこでは、イベントワークブックなどを使って自分の興味関心がある分野について考えたり、イベント参加の心得について教えていただきました。

イベント当日、現地に着くと、私たちと同じようにバスで来ている学校がいくつもあり、会場の広さとたくさんのブース、それに数え切れないくらいの高校生がいて、少し圧倒されました。けれども、事前指導のときに、話を聴きたい学校や体験してみたいブースを選んでおいたため、時間内に回ることができました。どのブースもわかりやすく楽しいお話で、とても有意義な時間でした。

まだ自分の進路ははっきりとは決められないでいますが、このイベントに参加したことで、ちゃんと考えなきゃいけないと思えました。これからもこのようなイベントがあったら参加してみたいと思いました。



１日防災学校

総務部長　龍　　聡己

９月20日に石狩振興局、千歳市、千歳市消防本部、自衛隊、保護者の方々の協力を得て、「１日防災学校」を実施しました。

この日は、朝の「シェイクアウト訓練」から始まりました。地震発生を告げる放送の音声に反応して、①ドロップ（姿勢を低く）②カバー（頭や首を守って）③ホールドオン（動かない）を実践しました。

続いて各年次に分かれて、「避難所運営ゲーム」、「避難所体験プログラム」、「防災に関する教科授業」を行いました。１年次は、石狩振興局危機対策室の職員を講師に迎え、避難所運営ゲーム「Doはぐ」を行いました。「Doはぐ」は、真冬の北海道で直下型地震が発生し電気や水道等が使えないという想定に沿って、今回は150枚のカードで示されたさまざまな条件を、５～６人のグループで話し合って解決していく「防災教育カードゲーム」です。次々と訪れる避難者を体育館や教室等に振り分けつつ、都度生じるイベントに対して選択・判断を行っていきます。難しい判断を迫られることもあり、生徒たちは大変苦労していましたが、「Doはぐ」を終えた生徒からは、「冷静に行動し、自分や家族の体の状態や家族構成などをすぐに言えるようにしようと思った」という声が聞かれました。

各年次とも２時間ずつ行った「防災に関する教科授業」のうち、「英コミュⅠ」では、「外国人に災害・避難を伝えよう！」というテーマで、災害に関する英語の言い方や災害時に外国の方にどう声をかけたらいいのかなどを学びました。

２～３年次で行った「避難所体験プログラム」では、千歳市防災・危機対策係の越智係長を講師に迎え、災害時に起こる様々な出来事に対応したハイゼックス（ポリ袋）炊飯や発熱剤を使用した災害食、応急手当、非常用トイレの設置などを体験的に学びました。

午後は、全校避難訓練に続いて、３つのグループに分かれ、消火器を使った「消火訓練」、校舎３階から救助袋を使って降りる「降下訓練」、陸上自衛隊千歳基地の隊員による「救難訓練」を行いました。

帰りのSHR後には、「帰宅確認・保護者引渡訓練」を実施しました。保護者引渡訓練は、大地震で公共交通機関がストップ、道路も寸断されたという想定の下、50名余りの保護者の方にも参加していただきました。

生徒たちの振り返りからは、「１日防災学校」を通して「自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力」や「自ら進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献しようとする態度」を少なからず身に付けることができたようです。

このプログラムを実施するに当たり、協力をいただきました全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

校外清掃

１年５組　担任　今岡　貴宏

千歳北陽高校では、毎年１年次による校外清掃を実施しています。今年度も２ヶ月に１回のペースでクラスごとに元気に活動しています。近隣の方々から声をかけられることもあり、生徒達の喜びとなっているようです。ボランティア精神や愛校心を育む機会として、今後も継続して実施してまいります。皆様のご理解、ご協力をお願い致します。

いのちの講話

養護教諭　古瀬　あかり

10月25日、札幌市「助産院あさ」吉裕子先生をお招きし、「自分のこころとからだを守る生と性の話～高校生に伝えたいこと～」と題して「いのちの講話」を１年次対象に実施しました。

LGBTQ、性的同意、デートDV、正しい避妊法や対処法、出産の感動など、高校生の今知ってほしいことがもりだくさんの講話でした。講話は事前に行ったアンケートや質問に講師が答える形で進められ、講話中にもたくさんの問いが生徒に投げかけられました。生徒は、近くの人と意見を交わしながら、自分の価値観や気持ちを考えて講話をきくことができたようです。

生徒からは、「セックスを紅茶に例えている性的同意の動画が分かりやすくてよかった。」「求められた時も嫌なら嫌とはっきり言い合える関係を築きたい。」「LGBTQについてもっと知ってほしい、まだまだ辛い思いをしている人が世の中にいることを思いながら生活したい。」「出産の動画が印象的。妊娠のきつさや、命の重さを感じた。改めて親に感謝したい。」などの感想がありました。自分を大切にすること、相手を思いやることについて考え、より良い人間関係について学ぶ機会となりました。

部活動

レスリング部

全国大会に出場して

レスリング部　１年２組　三明　日香

私は、今年８月に全国高等学校総合体育大会（インターハイ）、10月に全日本女子オープン選手権に出場しました。

インターハイでは、２年次の上中屋敷先輩とともに出場しました。結果はどちらも一回戦負けでしたが、この経験は私達にとって、大きな学びとなりました。試合前には相手を研究し対策を立てつつ、考えながら頭を使って練習することができました。試合後には、試合中の動きについて先生からアドバイスを頂き動画を見て課題を探しノートにまとめるなど、次に活かせるように努力することができました。

全日本女子オープンでは、３位に入賞しました。個人的には、優勝を目指していたのでとても悔しい結果でしたが、この大会でもたくさんの課題点が見つかりました。全国大会の強い選手たちをよく洞察して、より強い選手になるにはどんな点を修正していけばよいのか、顧問の先生と共に、話し合いながら探しました。次の女子の大会は来年の４月で、まだ練習時間はあるので、これからも日頃の部活動の時間を有意義に使い、練習に励みたいと思います。

現在、レスリング部にはマネージャー２人含めて10人の部員がいます。楽しい雰囲気で、それぞれが個々の課題を持ち、目標にして、毎日練習しています。学校の先生方や保護者のみなさん、マネージャーからのサポートがあってこその部活動であることを忘れず、日々精進していきたいと思っています。

全国大会に参加して

レスリング部 顧問　屋敷　宗寿

８月１日から４日まで佐賀県嬉野市で行われたインターハイに２名の選手が出場しました。男子フリースタイル125kg級で出場した２年次上中屋敷選手は昨年の北海道インターハイにも出場しており、全国大会の雰囲気にも慣れ期待が持たれましたが善戦むなしく初戦敗退となりました。女子フリースタイル68kg級に初出場した１年次三明選手ですが、本来の階級を１つ上げての出場となり、全国大会の雰囲気と力の差を痛感した試合でした。試合後二人は全国大会で勝つことの難しさと今後の課題が見えた大会となりました。

また、１年次の三明選手は10月19日から20日に静岡県焼津市で行われた全日本女子オープンレスリング選手権大会U17フリースタイル65kg級に出場し、インターハイでの課題の克服を心がけ１年次ながら３位入賞を果たすことができました。

現在、レスリング部は初心者の素人集団ですが、日々の練習の積み重ねで少しずつ実を結び出しています。今後も文武両立を目指して頑張りたいと思います。

部活動

水　泳　部

この経験を糧に今後の人生を！

水泳部　３年１組　篠﨑　　由

高校生最後のインターハイは佐賀県で行われました。気温が非常に高く、寒暖差にすごく悩まされる大会でした。今大会も４日間日程で行われ、私は１、３日目に100、200m平泳ぎに出場しました。結果は自己ベストにも届かず、後悔が残る大会になってしまいました。会場のプールの水深が普段とは違い、倍以上に深くなっていて、いつもの感覚では泳げず、悔しさだけが残ってしまいました。しかし、自分よりレベルの高い選手の泳ぎを間近で見ることができたので、勉強になることが多くありました。

これからの人生では、全国大会に出場できる機会が多いわけではないので、貴重な経験として今後の糧にして頑張りたいと思います。顧問の先生、大会運営の方々、日頃支えて下さったPTAの皆さん、そして応援してくれたみんな、本当にありがとうございました。

ありがとうを強さに変えて
北部九州総体2024水泳競技大会

水泳部 顧問　長友美愛子

今回のインターハイ、まずは大会まで毎日の辛い練習を継続し、大会に向けてコンディションを整えて本番を泳ぎ切った２名の選手に拍手を送りたいです。移動や暑さの疲れ、初めて泳ぐ水深３ｍのプールといった環境の違いに苦しんでいましたが、レース前には『(ベストな泳ぎをするので）任せて下さい！』と前向きな気持ちでいる２名の選手が頼もしく感じました。

結果は本人達の納得できるものではなかったと思います。悔しそうな表情がとても印象に残っています。日誌には、大きな大会でベストパフォーマンスを発揮することの難しさ、自身の課題や、切磋琢磨してきた仲間や支えてくれた人達への感謝の気持ち、次の大会に向けての目標等が書かれていました。大学に進学し競泳を続けることを選んだ３年生の篠﨑、自分の本番が終わった次の日からサブプールで練習をしていた１年生の笠原、２人の新たな挑戦はもう始まっています。この悔しい経験を忘れずに、練習に取り組んでいってほしいと思います。

終わりに、水泳部のインターハイ出場にあたり、ご支援、ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。今後とも水泳部の応援をよろしくお願いします。

陸上競技部

全道大会に出場したことにより

陸上競技部　３年４組　両角　優杜

私は、６月に旭川市で行われた第77回北海道高等学校陸上競技選手権大会に男子ハンマー投で出場しました。予選は８番で決勝に進出したものの６位入賞ができず全国大会出場は果たせませんでした。顧問の先生方や家族、たくさんの人に支えられて辿り着いた全道での結果に、とても悔しくもっと良い結果を残したかったです。

負けた瞬間は言葉にならないほどの悔しさが込み上げてきました。目標にしていた記録、理想のフォームで投げられなかったことに今でも後悔が残ります。

ただ、この大会を通して学んだこともたくさんありました。全道大会で戦う相手は、自分以上に練習に打ち込んできた選手ばかりで、彼らの技術や集中力から多くの刺激を受けました。また、試合の緊張感やプレッシャーを経験することで、自分のメンタルの弱さにも気付くことができました。

悔しい結果ではありましたが、これまでの努力と経験は決して無駄にはならないと思います。今後の自分の人生でも、この経験を活かし、今回の悔しさを糧にして、さらに成長していきたいです。

陸上競技部 顧問

６月11日（火）から旭川市花咲スポーツ公園陸上競技場で行われた第77回北海道高等学校陸上競技選手権大会に出場してきました。札幌支部大会では、自己記録更新する２位で勝ち上がり、支部ランキング９番で全道大会を迎えました。全国大会の出場条件は６位入賞。ランキング上ではわずか３ｍの中に５人の選手がおり、熾烈な戦いとなる状況でした。その中、全国大会出場を目標に日々トレーニングに励んできました。予選は１投目で自己記録を更新する45m52で予選を通過し決勝へ。決勝は全選手が独特の緊張感の中、中々思うような記録が出ない状況でした。その中で１投目がファール。本人にはさらにプレッシャーがかかり自己記録を更新することができずに３本目終了段階で10番。８番までに権利がある４投目以降の試技に挑戦することなく敗退しました。本人は悔しい思いをしたまま旭川から帰りましたが、今後の人生の糧にしてほしいです。

各年次より

大きな選択への準備

１年次主任　坂　下　佳　子

入学以来、宿泊研修・学校祭・体育祭などの行事や日々の関わりの中で、新たな友人も多くできたことと思います。たわいもない会話をしたり、楽しくお弁当を食べたりしながらも、ダメなことをダメと言ってくれる友だちこそ自分にとって大切な存在です。周囲を気遣い、相手のための言動ができる人になってほしいと思っています。

また、「産業社会と人間」の授業を通して、自分を知り、仕事を知り、将来の進路を考える時間を多くとってきました。この前入学したばかりと思っていてもあっという間に冬になり、あと１年で次の進路を決めなければなりません。高校を決めた時よりも、今度は一生が関わる大きな選択となります。成績だけでなく、部活動・行事・検定などたくさんチャレンジして、自信を持って悔いのない選択をしてほしいと思っています。保護者の皆様のご協力をいただき、子供達の成長を見守っていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします。

２年次より

２年次主任　林　川　弘　嗣

10月６～９日の３泊４日で、広島・関西の見学旅行に行ってきました。異なる風土、歴史を肌で感じられたと思います。この４日間のために事前学習、班別研修の計画、集団行動など多くの準備をして臨んだ旅行でしたが、多くを学び、体験し、楽しい時間を共有できた、有意義な旅行だったと言えます。

また、２年次はこれから進路活動に本気で取り組みます。自分の将来のため、目標を見定め、自らの足で進まなければいけません。来年の進路実現に向けて、まだまだ、保護者の方のお力をお借りします。生徒の皆さんは、桜咲く４月を笑顔で迎えるため、今できることを一歩ずつ、前を向いて進んでいきましょう。

３年次近況

３年次主任　手　東　正　紀

卒業まで残すところ15日弱の登校日となりました。残された高校生活を悔いのないように過ごして欲しいと心から願っています。さて現在、３年次生は進路活動をメインに生活を送っています。６月から始まった総合型選抜試験（ＡＯ入試）エントリー、９月には民間就職試験、さらには自衛隊試験を中心とした公務員試験に続き、今は学校推薦型試験（指定校・一般）に続いています。それぞれの生徒は、自分の夢（目標）に向かって、悩みもがきながら、歩みはゆっくりではありますが着実に進んでおります。現在、進路決定者は97名になりました。これからも、卒業までの残された期間、自分の夢の実現に向けて、諦めることなく歩みを進めて欲しいです。

こころを洗って、そして自ら汗を流して

北海道千歳北陽高等学校長　渡　辺　晃　史

前期終業式の校長講話では３つのことを話しましたが、そのうちの１つについて掘りさげたいと思います。それは「遠軽家庭学校」についてです。私は壇上で、「遠軽家庭学校とは、このような学校で、こんな教育活動をしています。」というような話はしていません。私がここで話すよりも、北海道縁の彼の「ことば」で聴いてもらいたい。それが、「知る」というとっかかりとしては、最良であり的確であると感じたからでした。そしてそれを聴いた後に、生徒自らが更に探究したいと感じてくれたら、マルという思いからでした。

『安住紳一郎の日曜天国』（TBSラジオ）。毎週日曜日午前10時から放送されている番組です。関東圏に住んでいなくても、いまでは北海道でも、このラジオを聴くことができます。インターネットラジオ「radiko」やリアルタイムでなければ「YouTube」などでも聴取可能です。この番組の「2024年６月30日」放送分において、「遠軽家庭学校」のことが語られています。よろしければ、ここまでお読みいただいたところで、お手持ちのスマホ等で「安住紳一郎の日曜天国　遠軽家庭学校」と検索していただけますか。お時間が許せば、どうぞ最初から「30分程度」をお聴きください。

（実際にお聴きいただいたという想定で続けます）遠軽家庭学校の教え、「流汗悟道」。その意味合いを知りました。（以下太字箇所：遠軽家庭学校HPより引用）

「流汗悟道」人間は汗を流して、初めて何かが分かってくるのです。多くの人々の世話になっていること、助けを受けていること等々、自ら汗を流して体験しなければ、何も分からないのです。怠惰では人の心やその活動を理解できないのです。私たちは多年にわたって、さまざまな生産活動に努力してきました。年若い少年諸君と共に、熱心に勤労の生活を続けて来ました。少年の心を養いたいと願ってきました。

安住さんが語ります。「人は汗を流して初めて何かが分かる。人は自分で薪を切ってくれば薪を大切に使うし、ペンも紙もお米も車が動くのも、世界のどこかで誰かが汗を流しているからだ。自分で汗を流せば、世の中のことが分かり苦労が分かる。だからこそ、自ら汗を流して、よく働き、よく食べ、よく眠る。いまも家庭学校の皆さんは、この教えのもと、勉学と、特に作業を重視して、山のしごと、味噌づくり、バターづくり、酪農、炊事・洗濯を朝６時から起きて汗を流している。馬や牛たちが自ずと先生になり、子どもたちを導いてくれる。なにか、こころ洗われませんか。モラルとか道徳とかが無くなってきたといわれるいま、何をしたらいいか、皆さんそれぞれが感じてくだされればと思います。」

平成のはじめ、教員駆け出しの初任者研修で、私は初めて遠軽家庭学校を訪問しました。それから30年以上が経ちましたが、世の中がどんなに変化しても、変わらぬ教育がそこにはありました。いま本校に集う皆さんにも、こころを洗って、そして自ら汗を流して、地域に愛され必要とされる、新しい千歳北陽高校の総合学科を創りあげていってほしいと思います。